

第6学年2組 算数科学習指導略案

日 時：平成18年9月27日(水)
場 所：6年 組教室
授業者：

1. 単元名 単位量あたりの大きさ
2. 本時の目標 「道のり=速さ×時間」の式をもとにして、時間をもとめることができる。
3. 本時の評価規準 数学的な考え方：速さや道のりを求める公式から、時間の求め方を考えている。
4. 本時の展開

過程	主 な 学 習 活 動	学 習 集 団	個のつまずきに対する指導援助
素材提示	<p>1 時間を求める問題を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(問題)</p> <p>時速80 kmで走る自動車が、480 km進むのに、何時間かかるでしょう。</p> </div>	全体	<p>つまずきの様相 速さと道のりから時間を求める方法が分からない。</p> <p>評価 ノート、交流の姿、質疑応答</p> <p>手だて 前時に学習したことを数直線を使って表す活動を行わせ、数直線上の時間の値を隠しながら「どうすれば時間を求めることができるかな」と問い、道のりを速さでわれば時間が求められることに気づかせる。</p> <p>具体的な手だて(自分だったらこんな発問をする。こんな提示をする。など)を、授業を見ていただきながら、書き込んでください。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> </div>
課題化	<p>2 前時との違いを確認する。 前時は道のりを求めることを学習した。道のりは、速さ×時間でもとめることができた。 時速80 kmは1時間に進む道のりのことだった。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(課題)</p> <p>速さと道のりから時間を求める方法を考えよう。</p> </div>	個	
課題追究	<p>3 方法の見通しをもつ。 数直線をかいて問題の意味を理解する。</p> <div style="margin: 5px 0;"> </div> <p>4 1時間に進む道のりのいくつ分の考えを使って求める。</p>	ペア	
解決	<p>時速とは、1時間に進む道のりのことから、進む時間を求めるには、全体の道のりの中に1時間に走る道のりがいくつあるかを求めればよい。 道のり÷1時間に進んだ道のり $480 \div 80 = 6$ 割合の言葉を使えば、比べる量÷もとにする量=割合</p> <p>5 全体で求め方を確かめる。 道のりの公式から考えると、 道のり=速さ×時間 $480 = 80 \times \quad = 480 \div 80 = 60$ だから6時間かかる</p>	全体	
一般化	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>まとめ：</p> <p>時間を求める言葉の式は、道のり÷速さ=時間</p> </div>	個	
評価	<p>6 時間の求め方を確かめる。 定着問題 時速60 kmで走る自動車が120 km進むのに、何時間かかるでしょう。 時速60 kmで走る自動車が150 km進むのに、何時間かかるでしょう。 分速300 mで走る自転車が2400 m進むのに、何分かかるでしょう。</p> <p>評価問題の結果を見つめて、自己評価を行う。</p> <p>7 本時のまとめと自己評価を行う。 時間の求め方を見つけたことができましたか？(関心・意欲に関するもの) 1時間に進む道のりをもとにして求めることができましたか？(数学的な考え方に関するもの)(表現・処理に関するもの) 仲間の考えが、分かりましたか。(知識・理解に関するもの) 今日の学習は、分かりましたか。(知識・理解に関するもの)</p>	全体 個	

メモ(教師の姿、子どもの姿、板書など)